**№51　テーマ『巨大地震の意味』**

**講話日2011年4月11日**

**皆さんこんにちは。本当に皆さん方も3月11日の東日本巨大地震、本当に驚かれたことだと思うんですけども。ようやく被災地の方も少しずつ立ち直り始めていて、これから日本全土の支援を受けながら絶望から立ち上がって、徐々に復興がなされていくと思うんですけど。被災地の方々もそうですけど、我々もこれをどのように受け止めていけば良いのか、ということは人生の大きなテーマとなります。こういう天災と言われるようなことは、言葉としては天災は忘れたころにやってくるということがあるように、人生のうちに何度か繰り返される災害なんですよ。四日市・桑名の方も今から40年前に伊勢湾台風によって大災害を受けて、この地域で約6000名以上の方が亡くなられました。それを考えるとやっぱり天災というのは一生のうちに何度か訪れるものであって、またこの地域も東南海地震とか東海大地震とか、いろいろ大きな今回と同様の災害になりかない、そういう震災の予測がなされている地域なんですよ。ですからその意味でも、今回の教訓をどのようにこれから我々が自分の人生に活かしていくか、どういう風に受け止めていけば良いのか、ということは非常に大きな課題であります。誰の人生にとっても、人生のうち100年生きれば2、3回はこういう大きな災害、事件にぶち当たらざるを得ない。どなたの人生を考えても可能性がある事ではないかと思います。そういう意味でも今日は、「巨大地震の意味」ということについてお話をさせてもらいたいと思います。**

**天災は忘れたころにやってくるというのは、一体どういうことなのか。天災、天が引き起こす災害、天災というのは一体人間が何を忘れたときにやってくるのか。普通、天災は忘れたころにやってくるというのは、天災があったことを忘れてしまったころにまた天災がやってくるんだ、というような表面的な受け止め方をしている人も多いと思うんですけど、この言葉の意味はもっと深いところにあります。天災、天が引き起こす災害、天災というのは、一体人間が何を忘れちゃったときにやってくるのか。そういう問いかけという形にしていかないといけないわけであります。天災は人間が何を忘れたときにやってくるのか。それは天災というのは、人間が人間としての本来の生き方、本当の在り方というものを忘れたころに、天はその人間に本当の在り方や生き方をもう一度思い起こさせようとして天災は起こるのである。天災は天によって宇宙によってつくられた人間の命が天の意志に反するような生き方をし始めたときに、その人間の道から外れた生き方に警告を発して、本当の人間としての生き方というものをもう一度思い起こさせる。そういう意味もあって、天は災害というものを 人間に与えるんだという風に理解しなければならない。**

**人間の命も明らかに大宇宙の摂理の力によってつくられた命である。大宇宙の摂理の力というものを天や天意と言ったりするわけです。天意によってつくられた人間の命がその意を反するような生き方をし始めて、これ以上放っておいたら人類は滅亡する、ダメになる危機に到達したときに天は天災を以って警告を発して、人間がもう一度天意にかなう生き方をするように仕向けていく。これが天災の意味であります。ですから、天災は忘れたころにやってくる、というのはどのように理解するかということをわかっておいてもらいたい。天災は人間が本当の生き方、本当の在り方を忘れてしまったころに、人間に本当の生き方をもう一度思い起こさせようとして、天災、災害を人間にもたらす。そして反省させるんだということなんですね。これが、天災は忘れたころにやってくるということの意味であります。天災には天の意志、天意が含まれている。だから我々は、一体いかなる天意を伝えようとして今回の天災が起こったのかを考えていかなければならな**

**い。そのことによって我々のこれからの生き方に指針というか、目標が生まれてくるということになるわけであります。**

**もう一つの重要な言葉は、昔から言われている言葉ですけど、「万象これ皆、我が師なり」という言葉があって、万象=すべての現象。すべての出来事というものは、皆自分にとって先生と言えるものであって、あらゆる現象は何かを人間に伝え、何かに人間を気付かせ、何かを人間に教えようとして現象は起こるんだ、という風に考えなければならない。これも天災・天意ということをまた違った角度から表現したものであります。万象あらゆる出来事には意味がある。意味のない出来事はない。すべての出来事には意味がある。自分の身の回りに起こるいろんな出来事がありますよね。誰かに邪険にされたとか、誰かに嫌なことを言われたとか、事故にあったとか。いろんなその人その人にとっての嫌な事件、出来事というのは毎日のようにいろいろあると思うんですけど、そのすべての自分の身の回りに起こる出来事には、意味があるんだ。あらゆる現象というのは何かに気づかせようと、自分が忘れている何かに気づかせようという、そういう意味を持っている。あらゆる現象は自分の身に降りかかってくるのである。あらゆる現象は何かを自分に伝えようとしているんだ。「早くこのことに気がつけよ」と、あらゆる現象は自分の身の回りに起こってくるんだ。という風に考えなければなりません。**

**多くの人が自分の身の回りに起こる出来事を偶然で片付けてしまうということがあるんですよ。事故にあったのは偶然だ。誰かに嫌なこと言われるのも偶然だ。偶然と物事を理解すると、単に運が悪かった、で終わってしまう。うまくやれば、運さえ良ければそんな出来事に出会わなくて済んだと。よく交通違反やスピード違反、シートベルトをしておらずに捕まったなど、「運が悪かったな」という形で処理してします。いろんなことが起こっても、なかなか自分が成長することがない。あらゆる出来事を偶然で片付けてしまったら、自分が成長するということがない。そこには何の気づきもない。何の反省もない。何の教えられるところもない。だから結局は、同じような失敗は繰り返されるということになってくる。天災という天の災害も。そこから何かを学ぼうとしないで、「ただこれは運が悪かったんだ」という受け止め方をした場合には、ほとんどあまり重要な気づきというものがなくて、また何年かしたら同じようなことが繰り返されるということになってくる。多くの人はそういう気づきを持たないで、「ただ運が悪かった」「偶然の天災なんだ」としてしまう。そのために何の反省もしない、何の備えもしないということで、また大きな天災に見舞われて、また同じような災害を被る、ということの繰り返しというのが案外と多いわけです。まずとにかくは、あらゆる出来事は必然であって、この宇宙には何一つ偶然はない、という理解の仕方をすることが非常に大事なんだ。ということをぜひ理解をしていただきたいと思います。**

**皆さん方一人ひとりの仕事や生活の中でも、そういう自分の意に沿わないような出来事が降りかかることはあると思います。家庭の中でも職場でもいろんな人の嫌なことがある。それも単に偶然として切り捨てないで、起こることはすべて必然であって、何かを自分に気付かせようと思って、あらゆる出来事は自分の目の前に起こってくるんだ。何かを自分に教えようとしてあらゆる出来事は起こってくるんだ。何かを自分に伝えようとしているんだ。一体この現象は何を自分に教えようとして起こったことなんだろうか、どういうことに気づかせようとしてこういうことが起こったんだろうか、この出来事は何を自分に伝えようとしているのか、そういう意識であらゆる出来事、現象というのを受け止めていく、理解していくということをぜひやっていただきたいと思います。そうすればお客様との対応においても、あるいは仲間との人間関係においても、非常**

**に大きな気づきがあって、たぶんそういうことからお客様に褒められたり、尊敬されたり、あるいは仲間から尊敬されたりするような人間になれるのではないかと思うんですよ。いろんなことが起こっても何も気付かないようでは、「あいつは鈍い奴だ」と全くその気づきがないというか、そういうことで人間として軽く見られる、軽蔑されるようなことがあるかもしれない。とにかく、最初にわかっていただきたいことは、天災というのは人間が人間として大事なことを忘れてしまったときに、それを思い出させるために起こるんだ。という理解の仕方をしてもらいたいということと、あらゆる現象というのはすべて必然であって、そしてすべてのことは何か自分に気付かせようとしているんだ。という思いでいろんな出来事に対応して、あらゆることから何かを自分が掴み取る、何かに気付くという仕事の仕方、生き方、お客様の対応の仕方を是非覚えてもらいたい。実践してもらいたいと思います。もうすでにそういう仕事の仕方をされている方も、アサヒグローバルの社員の中に多いと思うんですけども、こういう事件を契機にして、なおさら大きな気づきを持って成長していってもらいたいという風に願っております。**

**なぜ我々はあらゆる出来事を偶然ではなく、必然という風に捉えなければならないのか。その哲学的な根拠は。なぜ必然と受け止めることは正しいのか。なぜ偶然ではないのか。そのことをどのように理解すれば納得できるか。そのことを理解するためには、命とはなんなのかということをちゃんと理解しなければならい。命とは何なのか。命というのは、うっかりすると自分の肉体の中にあるものが命だ、という風に考えていらっしゃる方が多いと思うんですけど、命というものは実は肉体の中に閉じ込められた閉鎖型というものではなくて、実は命は開放型と言われるものであって、命というのは肉体の外にあるいろんなものとのつながりを持ってしか存在できない、というのが命の実態であります。我々は外にある空気を吸う。そして自分の中に空気を吸って自分から炭酸ガスを吐き出す。という外の世界との交流なしには命は一瞬たりとも生存できません。また命というのは常に外の世界にあるいろんな食べ物を摂取して、そして不要なものを排泄して、という形で外の世界と関わっているわけであります。これは生物学的には新陳代謝。新陳代謝も我々自身の存在は、大宇宙との関わりにおいて存在するものであって、我々も大宇宙の一部分を占める存在なんですよ。**

**我々の命というのは、銀河系・地球との関係性だけではなくて、全宇宙との命の交流というものがあって、初めて我々の命が保たれている、生きることができていると言うことができるんですね。これを開放型。閉鎖型と開放型というのは一対の言葉。閉鎖型と開放型という言葉がありますけど命は閉鎖型ではないです。この命は俺の命というだけのちっぽけなものではない。命は常に大宇宙に解き放たれた開放型である。だから大宇宙とつながっているんだ。だから人間のちょっとしたさまざまな行為が、大宇宙との有機的な関係の中で、大宇宙に大きな影響を与えて、人間のいろんな言動が大宇宙に影響を与えることによって、大宇宙からその返答としての現象が人間の人生に訪れてくる。人間が外の世界に対してすることに、大宇宙がまた応答して返事を出そうとして、そしてその人間のやったことに対して返答・答えを出してくる。そういう関係性でいろんな出来事が起こってくるわけです。命は開放型であるから、命というものは大宇宙との関係性の中で存在するのである。そしてその命は大宇宙の摂理の力によってつくり出されたものだから、我々がその命をつくった大宇宙の意思に反するような生き方をしていれば、当然のことながらその人間の間違った生き方に対して宇宙は反応して、「そういうことはダメだよ」と言って、それに気付かせるための災害を人間にもたらすという関係性になっているわけです。この関係性からいって、命は開放型であると言われるわけであります。**

**命というのは、自分の肉体の中に閉じ込められているものでなくて、実は命の本質はつながりなんですね。あらゆるものとつながっていることにおいてしか生きられない。そのつながりが断ち切られれば、一瞬にして命は死なざるを得ない。それが命の本質であります。であるがゆえに今の災害も、全て命がつながっているということを自覚させられる。そういう災害であったわけであります。命はつながっているのだから、被災された方々の地獄のような苦しみというものが我々の命にも共感を呼んで、そして「なんとか助けてあげたい」「何かお役に立ちたいな」という気持ちが湧いてくる。これは命はつながっているから、だからそういう相手の苦しみを我が苦しみのことのように感じるということができることになるわけであります。命の本質はつながりなんだ。だから他人の苦しみを自分の苦しみのことのように感じる。他人の悲しみは自分にとっても悲しいと共感できる。そういう風な命の在り方が成り立つわけであります。命はつながりである、命は開放型であるということは、「単に宇宙とつながっているだけではなくて、我々人間同士の間でも命はつながっている」という在り方をしていまして、我々が生きているという現実を考えれば、我々が生きるために食べ物をつくってくださる方々がいて、我々はそれを頂いて生きている。また我々が着ている服をつくってくれている方々がいて、我々はそれを着させてもらって生活している。我々が使っているさまざまな道具をつくってくださる方々がいて、それを使わせてもらって仕事をしている。自分ひとりで生きているということを考えても、たくさんの人々のお世話になって、命のつながりの中で我々は生きられているんだということが、わかってくるはずです。我々を支えているその人たちの食べ物をつくり支えている人がいて、またその人たちの命を支えている人がいる。**

**今は世界はグローバル化していて一体化している状況ですから、日本は世界からいろんな資源・食物を輸入して、いろんな経済活動を通して世界とつながっています。我々は見たこともない人であっても、なんらかの形でその人のお世話になっている。そのことなしには自分の命は成り立っていないということがわかってくるはずです。外国に行ったり、日本でもいいですけど、黒人の方と会ったとしても、白人の方と会ったとしても、それは偶然ではなくて必然である。どんな人と会ったとしても皆その人に何らかの形でお世話になっている。会えば、「いつも大変お世話になっております」「毎度！」なんていう挨拶をしなければいけないくらい、つながりが命にはあるわけです。自分の命を支えるために存在してくれている人がいて、その人たちを支えている人たちがいて、またその人たちを支えている人がいる…というようにずーっと辿っていったら、全人類がつながっていると言えます。そのつながりがないと我々は自分自身の一個の命も保ちえない。それが今日のグローバル化された世界の実情であります。そういう意味でも命はつながりであると考えなければなりません。**

**そういう命はつながりなんだ、決して命は自分の肉体の中に閉じ込められた俺だけのものではない。自分の命がまた多くの人の命を支えて、また他の人の命が自分の命を支えてくれているという、そのつながりというものが命の本質なんだ。命とはつながりである。我々は他のあらゆる命に感謝しなければならない。これを人間界からもっと幅広く全生物にあてはめれば、生態系ということになって、ある昆虫の存在がなくなれば、あらゆる命の在り方に影響を与える。生態系が途切れれば、それだけで全生命が影響を受けるんだ、ということが生態系という話でよく言われるわけであります。だから干潟に存在するちっちゃな動物も殺してしまって、なくなってしまったら人間の命に関わってくるんだということになる。干潟を保護しようとか、そういう自然環境保護という運動をなさっている方々がいらっしゃるわけです。とにかく、すべての命は全部つながっ**

**ている。人間の命がつながっているだけではなくて、他の命ともつながっている。そして我々の命は宇宙ともつながっている。命の本質はつながりである。だからいろんな出来事が全部つながっているんだ。だから何かしら現象が起こったならば、その現象はどういう命のつながりから出てきた現象なのか。どういう理由があってそういう現象が起こったのかを知ることによって、我々の命の在り方という観点からすると、自分の生き方や自分の言動における問題点を、いろんな現象によって気付かせてもらって、そして自分を成長させるためにいろいろな出来事が起こってきてくれているんだ、ということがわかる。だから自分の身の回りに起こった出来事もそれを無視してはならない。常に何に自分を気づかせようとして、どのように自分を成長させようとして、この出来事は俺の身に降りかかったのか、そういう風に考えて学んでいくということが命は開放型であるという意味である。命はあらゆるものとつながっている、有機的につながっているんだということを理解して、起こること全部が必然である。決して偶然ではない、何一つ何気なく意味なく起こることは何もないんだ。全部に意味がある。それはなんなのかということを知ることが、非常に大事な自分の生き方の糧になる。**

**また自分を成長させていく為の大事な気づきになる。そのことをぜひ考えてみてもらいたいと思います。もっともっと自分の身の回りに起こる出来事に関心を持ってもらいたい。もっともっと自分の身の回りに起こる出来事から、いろんなことを学ぼうとする生き方をしてもらいたい。そうすることによって、あらゆる出来事に、あらゆる現象に感謝ができる。嫌なことを言われても、「それは何を自分に気付かせようとしてそういうことを言ったのか」を考えれば、嫌なことを言った人間に対しても「いや、よく言ってくれた。君がそんなことを言ってくれたから僕はこんなことに気づいて反省できた。ありがとう」と言って感謝ができる。そういう気持ちにもなれる。とにかくすべての出来事は偶然ではなく必然であると考えないと、人間は成長できない。偶然で片付けてしまっては、単に運が悪かったということで終わってしまって、何の成長もできなくなってしまう。ぜひ、命はつながっている。命の実態、命の本質はつながりである。命の在り方をよくよく考えてみてもらいたいと思うんですよ。実際問題、お父さんお母さんがいなかったら、自分は生まれなかったということになりますから、一番身近な命のつながりですよ。有機的なつながりが自分の命を支えているという理解の仕方があります。**

**もう一つは、ああいう巨大地震あるいは巨大津波の中で一瞬にして生死を分ける…自分は助かったけど、自分と手をつないでいた相手の人は、一瞬にして波に飲み込まれて死んでしまった。そういううっかりすると偶然に見える、そういう出来事にもどういう必然があったのかということも、我々は考えておかなければならない問題なんですね。一瞬にして生死を分ける出来事にも偶然では片付けることのできない必然的な意味があるんですよ。「なんであいつが死んで、なんで俺は生き残ったのか」そこにどういう必然性があるのか、それを考えることによって、これからの自分の生き方を成長させることができます。**

**命というものを内面から捉えていくと、どういう捉え方ができるかということなんですけど、命というのは、まずは単細胞生物からずっと進化して人間の命にまでなったという歴史があります。すべての人の命には、命の中に命の歴史というものが込められています。どういうことかというと、単細胞生物の段階からずっと命というのは個が連続してつながっているんですよ。自分には自分のお父さんお母さんがいる。お父さんお母さんにまたお父さんお母さんがいる。ということで、命というのはずっと命がずっと連続してつながっていると言えます。個の連続性というもの**

**が、命というものの内容を決定する縦軸、時間軸ということができる。どういうことなのかと言ったら、自分の命の祖先たちが犯した罪、さまざまな生き様というものが命には遺伝子としてずっと積み重ねられて残っているわけですよ。どういうことなのかといったら、自分の100年生きる人生の中でどんなことが起こるのかが、自分に到達するまでに祖先たちが犯したさまざまな善行・悪行が自分の中に宿業として残っているということ。宿業というのは、災と呼べるもの。過去の祖先が犯した罪もずっと自分の中に遺伝子として残っていて、過去の祖先たちが犯した罪が自分の人生において出てきて、そして自分が過去の祖先が犯した罪を人生の中で償わされるというのが、人生であります。命はこの連続性でつながっているということの恐ろしさです。「俺は何も悪いことはしていない」人間でも、なんらかの犯罪に巻き込まれて殺されてしまう。あるいは自分がこの人生で罪を犯したりして、人を殺したりした場合もそう。そういった人生のさまざまな内容、出来事というものを引き起こす一つの原因として、命が持っている時間軸、命の歴史というものがあって、過去の自分の祖先たちが犯したさまざまなことが、自分の命の中に潜在していて、それが自分の人生におけるさまざまな言動、生き様、性格、いろんなことを決定していきます。**

**よくまだ物心つかない子どもがさらわれて殺されてしまう、という事件があるわけですけど、そのときにもお父さんお母さんは殺した人間を許せない、八つ裂きにしても足りないと言って、恨んで恨んで恨み抜いてやるという気持ちになることが多いんですけど、なんで罪もない子どもがさらわれて殺されてしまうのか。そこにどういう理由があるのか。その一つの理由が、その子の命の中に存在する祖先が犯した罪をその子が現世において償わされてしまう。そういう命の在り方が存在するということであります。自分の命の中にある遺伝中には、そういうこと過去の因果、過去のものが因となって今結果として出てくる、という構造があるわけなんですよ。これは誰もが認めざるを得ない生物学的事実であります。命は個の連続性でつながっていて、命には遺伝子がある。過去の遺伝が、過去のさまざまな生き様が、遺伝子として積み重ねられて、今日に至っているのである。宿業と言ったり、さまざまな災い、罪障（差し障りが存在する）、宿業という言い方をします。自分の知らないところで自分の命の祖先たちが何かしら大罪を犯していたり、嘘を言っていたり、人に迷惑をかけていたりと、宿業と呼ばれるさまざまな災いが自分の命の中にはあって、それらが自分の人生の中で出てきて、犯罪を犯してしまったり、殺人者になってしまったり、事故にあってしまったりする。なぜ、こんなことに巻き込まれるのか、というひとつの理由と言えます。これはもう原因があって結果が出てくるものだから、避け難いどうしようもないと言ってしまいがちなんですけども、命に内在する罪障、宿業、さまざまな罪というものを我々は自分の人生の中で顕現させずに、その罪から逃れるという方法があるんですよ。それは自分の命というものを自分だけのものと考えることなく、せいぜい100年の命と考えるのではなく、命というものには38億年の歴史があるということを考えて、そして自分の命の祖先の命のことを思って考えて、そして祖先の命たちが犯したさまざまな罪に対して、自分自身が思いを致して、祖先の命が犯した罪を「どうか祖先の命が救われますように、助かりますように」と言って、祖先の命たちに思いを致して、祖先の命のために自分が祈る。その行為をすると、自分の命の中にある祖先が犯した罪が消える。人間は不完全ですから、罪を犯さずに生きていくことはできない。無意識に罪を犯してしまうというのは不完全な人間の避け難い宿命なので、避け難い罪というものに気づいて、そしてそれから救われるように祈る。それに気づけば、謝れば許されるというつながりが命にはあります。**

**意識というものも命の働きのひとつですので、意識において自分の過去の命たちが犯した罪とい**

**うものに思いを致して、その罪に対する反省というものを加えて、そしてその罪を犯した祖先の命たちが「助かりますように、幸せになりますように」と祈ることによって、その罪は気づきによって、謝罪によって消えて、そして結果としての出来事が自分の人生において起こらないようにさせることができる。これを罪障消滅と言って、過去の罪が消えるという行為なんですよ。これがいろんな宗教の中で呼ばれている「祖先を祀る」という行為であって、我々が墓を建てるのもまたお墓に行って祖先にお祈りを捧げて、そして自分の祖先方々が幸せになりますように、お父さんお母さんが幸せになりますように、天国に行きますようにという行為をすることによって、自分の命の中にある罪が消えるんですよ。そのことによって自分が幸せに生きることができる。そういうつながりが命にはあります。これはすべての宗教の中でなされていて、死者を祀ってお墓を建てて、そして命日だとかいろんなことを行事にして、死者の霊を弔うということをするわけであります。こういうことをするのは人間だけなんですよ、動物はしない。人間の独特の弔うという行為、過去の命の幸せを祈るという行為をすることによって、過去の命が救われるだけではなくて、自分の命の中にある過去から因に基づく罪障、災いが自分の命から消えて、祖先を祈ることによって自分が現世で幸せになれる。そういう風な命のつながりがあります。**

**こういうことを言うと、「なんか宗教っぽいね」「なんか特別な信仰でも持っていらっしゃるんですか」と言われそうですが、これは宗教ではなく生物学的事実なんです。生物学における研究からわかってくる事実なんです。遺伝子というのは命の過去の痕跡がずっと積み重なっているんですから。だから、我々は祖先に礼を尽くして、祖先の命を弔うことをしなければならない。なぜ、そんなことをしなければならないかという意味が、そこにはちゃんとあるわけであります。そうすることによって自分が幸せになる。自分が幸せになるためには、人を幸せにしないと自分が幸せにはならない。自分だけが幸せになって、自分の幸せのために周りの人が犠牲になるようでは、犠牲になった人からの不平不満が来て、自分も幸せな気持ちではいられません。本当に自分が幸せになりたいと思ったら、まず家族を幸せにする。一緒に仕事をした仲間を幸せにする。他の人を幸せにすることによって、初めて自分が幸せになれる。それは他の人を幸せにするための努力が、自分を成長させてくれて、そして自分も幸せになれるという関係性にあるわけですよ。自分の幸せだけを自己中心的に願っては不幸になってしまいます。他人を幸せにするための努力をすることによって……、皆さん方も多くの施主の方々の喜びと幸せを願って命を建てられているはずなんですよ。そしてその結果、お客様が喜んでくれれば、自分も幸せになれる…という実感があると思います。**

**これがいわゆる人間の職業というものが持っている、人間としての生き方の大事な本質になる部分なんです。人を幸せにしなければ自分は幸せになれない。人を幸せにするための努力をすることが、自分を成長させることになって、そして自分が幸せになれる。これが人生というものの命のつながりからくる幸せの原理であります。自分だけの幸せを願っては不幸になる。他人を幸せにする努力が自分を成長させてくれて、そして自分も幸せになれる。という結果が出てくるんだ。命のつながりがもたらす幸せ・幸福というものの原理であります。他人の幸せを願わないと、本当に自分も幸せになれない。**

**とにかく今日、三番目にわかっておいてもらいたいことは、命には縦のつながり、時間的なつながりというものがあって、命は単細胞生物の段階から個の連続性で命はつながっているんだ。自分の命の中には、38億年間の自分の祖先の命のさまざまな有り様というものが遺伝子としてずっと**

**積み重なって残っているんだ。そういうものを土台にしてしか我々の人生は成り立たない。そして遺伝子というものが人生の中でさまざまな働きをして、そして一種偶然とも思えるようなさまざまな出来事を自分の人生にもたらしてくれる。でも、それは決して偶然ではない。全部過去からの原因が結果として出てきただけのことであって、すべて必然と我々は考えなければならない。よく親の因果が子に報いと言いますけど、お父さんお母さんが良いことをなさっていたら、お父さんお母さんが亡くなられた後でもその子どもは、お父さんお母さんの良き行為というものの恩を受けて、皆から大切にされる。だけど、お父さんお母さんが皆に迷惑をかけるようなことをしていると、お父さんお母さんが死んだら子どもがお父さんお母さんが犯したさまざまな罪や迷惑を償わされる不幸な人生、皆から嫌がるような人生を生きざるをえない。これが親の因果が子に報い、ということなんです。そういうつながりが38億年間、ずっとあるわけですよ。過去の祖先たちの因果が自分に報いてくるわけです。そして、さまざまな人生の出来事を自分の命に起こすという必然性が出てくるわけであります。これは決してどうしようもない、避け難い必然ではない。命の時間的な、縦のつながりからくるさまざまなそういう必然性を逃れようとすれば、その道があるんだ。それは唯一、反省すること。謝罪すること。祖先の命のことを考えて、幸せを祈る。そうするとその努力が自分の人生にも跳ね返ってきて、自分の人生も幸せにしてくれる。祖先の命が持っている罪を謝ることによって償ってあげて、幸せになることを祈る行為が自分の命の中にある差し障り、罪というものを消滅させてしまう。それが罪を犯さざるを得ない不完全な人間が、唯一救われる道なのであります。特別な宗教なんて持っていなくても、とにかくはお墓に行って、お墓の前でひれ伏して、そして祖先の命たちの幸せを祈って、祖先の命が皆、幸せになって天国に行きますようにと祈る。その心が自分の命の中の罪を消滅させてくれるわけですよ。これが人間にしかできない尊い行為なんだ。不完全な人間にとって最も尊い、最も崇高な行為が謝罪。謝ることができないというのは、自己中心的な人間の最も大きな罪なんです。**

**もう一つ、命の内容に関わるつながりがあります。今度は横のつながり。空間的なつながり。今の38億年間の命のつながりは、時間的な、縦のつながりでしたけど、今度は命の内容を決定する横のつながり。これを縁と言います。「袖振り合うも多生の縁」と申しますけど、同時代に共に生きている人間との横の有機的なつながり。横の有機的なつながりとは、人間というのは皆不完全ですから、「俺は何も悪いことなんかしてないぞ」と言っても人間というのは決して完全なる善を出すことはできないから、どんなに良いことをしてもそのことによって誰かに迷惑をかける、誰かに不利益を与える、誰かの妬みを引き起こす。そういうことが必然的に起こらざるを得ない。これが不完全なる人間の避け難い宿命なんですね。自分がどんなに良いことをしても、人によっては「あんなに勝手なことをしやがって」と、それを恨む人間がいたりする。そういうのが縁という、いろんな人がいるということから出てくる自分にとって避け難い罪のひとつなんですね。自分はどんなことをしていても常に誰かに迷惑をかけているかもしれない。自分が何気なく発した一言が、他の人の心象を害して、多くの人に迷惑をかけてしまう。よく国会でも失言というのがありますけど、うっかり言ってしまって、国民が腹を立てて「なんていうことを言うんだ」と。別に言った本人にはそんな悪意があるわけないんだけど、何気なく言ってしまったことによって人の心を害する。あるいは人を絶望に陥れる。人に怒りを発生させる。また何気ない一言が限りない勇気を人に与えることもあります。**

**言った本人は忘れることでも、言われた人は覚えている。「あなたに言ってもらったことによって自分は立ち直れました」なんてことを言って、そのお礼に来たりなんかするんだけど、けれど、**

**「自分は一体何を言ったのかな…」そういうこともあります。何気ない一言が人を傷つけ、何気ない一言が人を救う。そういうことも世の中にはあるのが縁と言う横のつながりから出てくる不思議な出来事です。実はこれも不思議ではなくて、必然的に起こり得るつながりから来る現象なんですね。そういう意味では、何気ない一言が人を傷つけているということを考えれば、一体自分は誰に迷惑をかけ、誰を傷つけているかわからんという状態が、案外と多いわけです。それはしょうがないと言ってほっといたら、自分の何気ない言動によって傷ついた人からの恨みが、自分の人生にいろんな出来事を起こさせて、会社を辞めさせた人が恨んで会社に火をつけるとか、家族をってしまうとか。いろんな犯罪と結びついてくることがあります。本当人の恨みは恐ろしい。それは「自分がそんなに悪いことをしたわけではないのにな」と思っているんだけど、何気ない一言が人の恨みを買うということは世の中にはもう日常茶飯時、いっぱいあるわけです。大きな恨みから小さな恨みまでいっぱいある。たぶん、自分が誰かから嫌なことをされることになっても、原因は何かしら自分が意識しない間に相手に嫌なことを言ってしまったり、相手が気に入らないことをしてしまったり、そういうことがたぶんどこかであったから、相手は自分に嫌がらせをしてくることになってしまう原因は自分がつくったんだ、という風に思わなければなりません。**

**ちょっとしたことが、人の心に大きな傷を与えることもあるんですよ。うっかり見下げるような、馬鹿にするような、批判するような目で相手を見ることによって、「俺のことを嫌っているんや」「俺のことを馬鹿にしている」と思ったら、相手はことある度に自分に反発してくるという人間関係を自分のうっかりしたことでつくってしまう。これが縁の恐ろしさです。良いこともあれば、悪いこともある。これが横の命のつながりから出てくる、自分の人生のさまざまな内容を決定する要因であります。うっかりしてやることですから、どうしようもないという風に思われるのかもしれませんけど、これもやっぱりうっかりした、自分の不完全なるがゆえのさまざまな罪、他人に対して迷惑をかけたことからくる自分の人生に対する差し障り、出来事というものから自分が逃れようと思ったならば、常に自分はどういう風な気持ちでいなければならないか。「自分は不完全だ」、だからついつい心ならずも人に迷惑をかけ、人に嫌な思いをさせていることがあるかもしれない。本当に自分はそういうことに対して申し訳ないという気持ちを持って、多くの人に謝らなきゃならない。決して傲慢になってはいけないな、いつも謙虚な気持ちで生きなきゃならないという気持ちに自分がなって、反省するだけで自分が多くの人に与えたさまざまな罪から命が救われるわけなんですよ。謝罪するということは、不完全な人間における最高の罪を償うという行為になってくるわけです。謙虚な気持ちで生きていれば、相手から見ても「あいつは傲慢なやつではない。自分に対して嫌なことを言ったことに対して反省しているような気持ちになってくれている。もう許す」という気持ちになってくれたり。相手から嫌なことをされないような状況に自分がなれるということですよ。これもやっぱり自分が無意識的に犯したさまざまな罪に対して、反省を加えて「本当に自分は至らない人間です」と、決して傲慢にはならない。そういう気持ちになることが、自分の命を救う、清らかにするという働きをしているわけであります。**

**このことが、命の内容を決定する事柄、大きな事件が起こったとき、生死を分けることに関係するわけですよ。「なんで一緒にいて俺は助かって、あいつは死んだのか」。その中には命の内容を決定する時間的な命のつながりと、空間的な命のつながりというものから、命に与えられるさまざまな罪、罪障、宿業というものに思いを致し、傲慢な気持ちを捨てる。そして祖先を思いまた共に生きている人たちに対して迷惑をかけたことを思い、常に謙虚に反省して生きるということは、そ**

**ういうことがあったらば、そのことによって他の人が死ぬような状況でも、その人は救われるという結果が出てくるわけであります。大体世の中というのは、善人悪人半分と言われまして、善と悪は必ず半分ずつある。だから必ず世の中には傲慢な気持ちを持った人間が半分、謙虚な気持ちを持った人間が半分、反省する気持ちを持った人間が半分、反省できないような自己中心的な人間が半分という構造で成り立っています。どんな出来事が起こっても半分の人は死ぬんですよ。半分の人間は生き残るんですよ。これが宇宙の摂理というバランスをとるという働きのもとで生じる、生死を分ける出来事が起こるときの原理であります。**

**あんな良い人が何で死んでしまうのか。それは自分の命の過去の祖先の命たちが犯した罪を償わされてしまうから。いろんな時間的、空間的、さまざまなつながりが命にはあって、そしていろんな出来事が起こってきます。だからこそ我々は、あらゆることが起こることは全部必然であって、「一体何を俺に気付かせようとして、こういう出来事が起こったのか」ということを常に考えながら、自分を成長させていかなければならない。これは皆さん方に聞いていただいてる感性論哲学では、前々から問題というものは、苦しみというものは、自分を成長させるために出てくるのであって、決して自分をダメにするために、自分を落ちぶれさせるために起こるのではない。問題や悩みや出来事は、自分を成長させるために出てきてくれているんだ、と理解をしなければならないということを申し上げ続けてきましたけども、とにかくその意味で天災、巨大地震というものが、一体何を自分に気づかせようとして、起こったのか。なんで東日本、東北地方にこういう地震が起こったのか。どうして巨大津波が東北地方を襲ったのか。またなんで東北地方に原発事故が多発するのか。そこにどういう天の意志が含まれているのか。何を一体天は人間に悟らせようとしているのか。そういう気持ちを持って、我々は災害、問題に対応していかなければならないわけであります。**

**そのことによってこれからの人間の生き方が変わる。そのことによって人類はもう一次元高いレベルに成長できる。ただ、ここから何も学び取らないで、偶然の出来事であって人間が反省しないで、ただ原発の事故を大事にならないように収めればいいんだ、津波から東北地方を復興させれば良い、と一人ひとりの人間が何の気づきもなく、成長することができなかったとしたら、また天災は繰り返されるんですよ。宇宙というのは、皆さん方ご存知のようにバランスで動いているんですよね。マイナスエネルギーとプラスエネルギーのバランスで動いていて、宇宙の秩序を崩壊しないようにやっていて、それが宇宙の摂理といえるもの。宇宙の中にある人間が、人間として間違ったことをすれば、その歪みを修正しようとする出来事が宇宙には起こるんです。それが天災なんです。どこかに間違いがあったらそれを修正しないと、宇宙の秩序は崩壊しますから、それを修正しようとしていろんな出来事が起こるんです。それが自然のいろんな出来事と言うか、災害になるわけです。それは人間と宇宙、人間と自然がつながっているから起こる出来事なんですよ。我々の何気ない一挙手一投足、言動は常に宇宙に影響を与えているんですよ。それが宇宙の秩序を崩壊させるようなことであったなら、宇宙はそういうことが起こらないように先回りして、手を打つ。そういう働きが宇宙にはある。それを宇宙の摂理と言うんです。**

**経営者でも松下幸之助さんのように宇宙とつながった命を持っていらっしゃる方は、常に経営も宇宙の摂理に反することはしたらいかんと言って、晩年は宇宙の摂理に合った経営・生き方をしないとダメだと、常にいろんな機会でおっしゃっていました。宇宙にはバランスを取る能力がある。人間で言えば自然治癒力、病気になったらその状態を治そうとする、それを自然治癒力と言**

**う。それは人間がつくったものではない、宇宙から人間に与えられたもの。人間の自然治癒力は、まさに宇宙の摂理の働きで、宇宙も同じことをしている。宇宙もバランスが崩れると、バランスを取り戻そうとして、シーソーのような形でバランスを取っている。だから人間が間違った生き方をすれば、その間違ったことを修正して元に戻そうとして、いろんな出来事が起こってくる。**

**世には預言者と呼ばれる方がいらっしゃいますが、そういう預言者の言というのも霊感・感性に優れた人たちが皆予言的なことを言っているんですけど、2012年から13年にかけて、大きな天災が宇宙には生じるんだという予言がされていて、そういう本が何冊も出ています。驚愕の地球崩壊、驚愕の大予言なんてタイトルで本がいっぱい出てますよ。そういうのも宇宙のバランスが悪くなってきている状態を感性で感じ取って、そして霊感的な能力を使って本に書いているわけです。とにかくあらゆるものは有機的に全部つながってますので、ちょっとした人間の言動も全宇宙に影響を与えるんですよ。だから中国やインドの奥地なんかでは、未だに修行者の方がいて、いわゆる仙人。超能力を持った方がいて、自分の一念で雲を読んで雨を降らすとか、一念で飛ぶ鳥を落とすとか、一念で雲を払って晴れにするとか、そういうことができる人がいるんですよね。いかに人間の一念が恐ろしい力を持っているかということ。今回の震災でも水の力は恐ろしいと言いましたけど、人間も自然なんですよ。人間も宇宙の中の一個の存在なんですよ。だから、人間も本当の自分の底力、本当の命の力をその極端に、極限に使えば、そういう他の天体、自然を動かすことができるような力を持っているのが、自然物である大宇宙の一部をなしている存在である人間の凄さと言うことができます。**

**よく人間と言っても自分の意識が宇宙とつながったという方々が、いろんな業界におられますけど、宇宙とつながった命を持っている方々というのは、本当に一個の人間の力とは考えることができないような、そういうとてつもないことをしてしまうということがあります。個の限界を超えた、ひとりの人間の力ではない、宇宙の力を借りたとしか思えないような結果を出す人物が、何人か各時代にはいるわけで、そういう人物を天才と呼んだりします。歴史に名をとどめるような大業を成し得た人は皆そういう風な天の力、宇宙の力を借りて仕事をしたというのは、そういう感じの人だと思うんです。とにかく人間も宇宙の一部なんですよ。人間も宇宙なんですよ。宇宙が持っているさまざまな不可思議な力を皆人間は自分の命の中に持っている、蓄えているんですよ。だけど、なかなかそれが出てこない。それを発揮する人が少ない。本当にその力を発揮しようと思ったら、自分自身の意識を宇宙と結びつけて、そして宇宙から湧き上がるエネルギーを使える命の構造をつくらないといけない。ですけど、なかなか普通の生活の状態では、それはできない。唯一可能なのは、仕事の上でどうしようもない難関にぶつかって、「だけど何とかしたい」と思って頑張っていると、今自分の持っている力でなんともならんけど、何とかしたい。だからなんとかせんことにはいかん…と思って頑張っていると、命が宇宙とつながって自分の命をつくった母なる宇宙が自分の中で目覚めて、これだけ頑張っているんだから何とかしてあげたいと思ってくれて、宇宙の底から湧き上がる力をその人に与えてくれるんですよ。そのことによって知恵や気づきが湧いてきて、問題を乗り越えられてしまう。これが偉業を成し得た人間の力なんですよ。人間が一個の人間の限界を超えるような問題とぶつかって、あきらめないで頑張っていると、お母さんは「何とかしてあげたい」と思って、母性がくすぐられちゃったりなんかして、我々は宇宙から言ったら子なる命ですから、必死になって頑張って、絶望しないで頑張っていると、お母さんなら何とかしてあげたいと思ってくれるんですよ。そういう母性をくすぐるところまで、自分が努力をして、そして問題を乗り越えようとすることによって、我々は宇宙とつながって、宇宙の根源から湧**

**き上がる力を自分のものとして使うことができる。そういう人間にもなれるんですよ。これは誰にでもその可能性がある。特別な人間しかなれないんじゃないんだ。誰にでも自分の人間としての力の限界に挑戦するという生き様ができれば、限界への挑戦ができる。気力の限界、体力の限界に挑戦するという生き様をすれば、誰でも宇宙から湧き上がる力の助けを借りられる。そういう状況に自分の命を持っていくことができます。それほどに自分の命は宇宙とつながっているんですよ。元から我々は宇宙の一部なんですから、我々も宇宙なんですから。とにかく、あらゆるものは有機的に結びついて、有機的につながっている。だから宇宙には何一つ偶然はない。全部必然、全部起こることには理由がある。**

**そういう必然という風に理解するためにも、命というものはつながっているんだ。あらゆるものとつながっているんだ。我々一人ひとりが全宇宙とつながっているんだ。あらゆる存在とあらゆる人間とが皆つながっているんだ。つながりこそ命の本質なんだ。命とは何かということを理解するためにもわかっておいてもらいたいと思います。命にとって一番大事なことは、つながることなんだ。つながりを忘れてしまったら自分の命は存在理由をなくしてしまうし、生きていけなくなってしまう。つながっているから生きていけるんだ。どんな傲慢な、どんな自己中心的な人間でも多くの人のお世話になってしか生きられない。それが現実なんだ。だからこそ感謝の心をなくしてはならない。また、つながっているということは多くの人に迷惑をかけてしか生きられない、というつながりもある。だから常に傲慢にはならないで、謙虚に感謝と謝罪を忘れずに生きるという気持ちが大事だ、という風に今言うことができるわけです。**

**具体的に言って、我々は巨大地震から何を一体学んだら良いのか。何に気づいたら良いのか、という話をさせてもらうことになるんですけど、ちょっと今ここで話の区切りがちょうどいいものですから、10分から休憩を入れて、そしてあと三つの話をさせていただきたいと思います。ちょっとここで休憩を入れます。どうもありがとうございました。**

**それでは後半の話をさせていただきます。**

**今度は、巨大地震はどんなことに気づかせようとして、信じられないような巨大震災が起こったのかということなんですけど、そのことを考えるためにはまず震災が起こる前の日本の姿を考えてみなければなりません。**

**震災が起こる前は国会においても与野党が激しく対立をしていて、口汚くお互いをけなしあって、本当に国民からなんて醜い論争かという状態に陥っておりました。また一般社会においても、離婚の激増は止まらない。本当にもう家庭内暴力というか、DVと言われる夫婦間の暴力行為が多くの家庭において年々壊滅的な状態にある。また親子関係も断絶があって、幼児虐待、高齢者への虐待、本当に信じられないような出来事、肉親間の血の通った温かな心があるはずの血縁という理屈を超えた関係においても、信じられないような出来事が日夜起こっているという現実がありました。また経済界においても、非常に困窮した状態がずっと続いていて、なかなか日本は自力で立ち上がることができなくて、ようやく中国やインド、アジア諸国の経済発展に支えられて、その恩恵を受けて、なんとなく日本の景気も良くなってきているという状況でした。経済的にも国家的な大きな困難を抱えていて、国は800兆円を超えるような国民に対する借金がある状況で、経済的には国家破綻のような状況でありました。それにも関わらず、毎年、毎年国債を発行し、限りな**

**く借金が増えていくというような国家破綻の状況に追い詰められている、というのが現状であります。国際的には、中国との間で尖閣諸島の問題があり、ロシアとの間で北方領土の問題があり、いろんなことで日本は弱体化につけこまれて、海外からの強引で理不尽な攻めにあっている状況です。国内外ともに問題山積という状況で困っていた。**

**国家が国内外において四分五裂、バラバラな状況になって、対立をして問題を抱えて苦しんでいる。どうしていいかわからない状況で苦しんでいる。そういうときに巨大地震は起こりました。一瞬にしてどうなったのかと言ったら、国会も与野党の論争は一旦休憩・休戦。こんな状況で論争していても埒が明かないと。ここは協力して問題を乗り越えていかなきゃならんじゃないかと。一瞬にして対立という状況が吹っ飛んでしまって、何とか力を合わせてこの状況を乗り越えようという、心をひとつにして乗り越えていかなきゃならんという心情が、全国的に溢れてきたわけです。そういうことを考えれば、今回の巨大地震というものは、四分五裂してバラバラになってしまった国民の心情をひとつに結びつけて、「どうすれば日本は立ち直れるのか」に気づかせようとするような意味を持っていたと言うことができるわけであります。**

**今回の巨大地震というものが、本当に日本国内に住むすべての国民に、「なんとか被災された方々の役に立ちたい」という思いを命の底から沸き上がる気持ちとして持たせた。国会も対立を超えて、力を合わせてお互いに提言をし合って、そして事態をなんとか乗り越えていこう、そうせざるを得ないという状況になってきました。これこそまさに、人間が天意、天によって、宇宙によってつくられた命としての人間の本当の在り方というものを忘れ去ってしまって、もうこのままでは本当にもう破滅、破綻状態になってしまう…という危機に天意は下って、天災は起こったわけであります。**

**ここから我々は、何を学ぶべきなのか。人間というのが小賢しい理屈であれこれ対立しているような醜い生き方をもうやめなければならない。そしてどんなことに対してでも、心をひとつにして皆協力して力を合わせていったら、どんな問題でも乗り越えられるんだ。どんな問題でも皆が力を合わせれば、必ず何とかなるんだ。そういう希望と勇気と自信というものを震災は日本国民に与えてくれた。教えてくれた。そういう結果になったわけであります。実際問題、小さな災害ではなくて、これほどの大きな災害でも起こらなければ、日本国民は心をひとつにして皆が助け合うような気持ちになりませんよ。いわゆる天は、母なる宇宙は、人間が人間としての本当の天によってつくられた本当の命の在り方というものを忘れ去ってしまった現状において、それを思い出させようとして、本当の命の在り方に戻そうとして、そして天は心をひとつにせざるを得ないような災害を日本にもたらしたんだ、という風に言うことができるわけであります。**

**なぜ心をひとつにして災害に対応していこうとする姿が、どうして天意に叶うのか。人間の命の根源が湧き上がってくる欲求というのは、できることなら皆と仲良く信じ合って生きていきたい、というのが、あらゆる命の根源から湧き上がってくる命の欲求であります。誰も喧嘩したいとか、対立したいとか、殺し合いたいという欲求を持ってないんですよ。皆本当に願っていることは、できることなら皆と仲良く信じ合って生きていきたいんですよ。これがあらゆる人間の命から湧き上がってくる命の根源的欲求であります。なぜそういう欲求が命から湧き上がってくるのか。それは命をつくったのは明らかに、宇宙の摂理の力です。宇宙の摂理の力が地球上に命を誕生させた。**

**そう考えれば、宇宙はまさに母なる命と言えます。母なる命によって生み出された我々は子なる命。この関係性から考えるならば、自分の産んだ子どもたちが皆仲良く信じ合って生きてくれることを願っているはずなんだ。お母さんの心からすれば、自分の産んだ子どもたちが憎しみ合い、対立し合い、言い争って、そして口汚く罵りあうようなそういう在り方というのは、お母さんが見たら本当に悲しい、泣きたくなるような悲しい状況だ。それが震災前の日本だったんですよ。国会はまさにそういう醜い状態にあった。家庭の中は夫婦喧嘩で離婚の危機に瀕していて、離婚の激増、幼児虐待は日常茶飯時に起こる。事件にならないような水準においても、お母さんによって子どもは罵倒されたり、殴られたり、イジメられたり、どの家庭にもそういう状況は多かれ少なかれ存在する。そして子どもが親を虐待する。母なる宇宙から見れば、「なんていうことをしているの」という段階に日本の現状にあったわけですよ。我々の情けないというか、乱れた状況に気づかせて、そして本当の人間としての生き方というもの、在り方というものに気づかせようと、取り戻させようとして、強烈な悲しみをも伴った思いを持って、今回の大震災は起こりました。心をひとつにせざるを得ないような規模の天災でした。そのことによってようやく本当に、日本人はあらゆる問題を一旦横に置いといて、とにかく今は、心を合わせて皆助け合うという気持ちにならざるを得なくなってしまったんですよ。これがまさに母なる宇宙が、天が望む人間の生き方であるわけであります。**

**実際問題、今回の出来事だけが、日本人にあるいは人類に心をひとつにして生きることが大事だということを教えてくれたんじゃない。今回の問題が起こる前に、アメリカ発の大金融恐慌と言われるサブプライムローン問題を端にして発したリーマンショックという大きな経済事件があった。あのときも債権というものが全世界の銀行に散らばっていて、それによって生じた金融恐慌は、アメリカ一国の力でいかんともし難い状況であった。そのまま放置すれば、全世界の国が弊害を被る状況にあった。全世界の金融が大混乱に陥るという状況であった。だからあれも全世界が力を合わせて対応せざるを得ないような問題だったわけですよ。だからアメリカだけではなくて、全世界の中央銀行が皆金を出し合って、そして大事に至らないように何とか食い止めた。というのが大金融恐慌から世界が救われた道筋でした。あれも全人類に心をひとつにして、理屈を超えて力を合わせて生きることが大事なんだ、ということを気づかせるための出来事だったと言えます。あれは人災なんですけど、今この時期に起こることはやっぱり天の意志があったと考えなければなりません。あのことによって人類は何を学んだのか、どんな酷い現象でも、どんな酷い出来事でも、全人類が心をひとつにして力を合わせるならば、どんな問題でも乗り越えられないものはないんだという自信を人類に持たせてくれました。**

**心をひとつにして事に当たれば、どんな問題でも乗り越えられる。心をひとつにして力を合わせて協力して生きることが大事なんだ。小賢しい理屈で対立している浅はかな状況を脱却して、理屈を超えた生き方、理屈で生きるのではなくて、感性を原理にして心をひとつにして生きる理屈を超えた生き方が、今こそ大事なんだと。これからの人類は理屈を超えて心をひとつにして生きるという、この感性を原理にした生き方をやっていかなければならない。そのことを人類に教えるためにリーマンショックも起こさせたわけであります。今回の大震災も日本一国の問題ではなくて、全世界から支援の手が差し伸べられて、何とか日本復活の役に立ってあげたいという気持ちを全世界が持たざるを得ないような状況になっているわけです。あの北朝鮮からでも日本に義援金が数百万円送られてきた。なんで北朝鮮が…という感じでしたけど、国家的なお金として…とは思いましたけど。ロシア、中国からも、全世界から義援金が送られた。義援金だけではなく**

**て、原発の問題もあるから、さまざまな技術的な援助や物資もあった。全世界が日本に目を向けて、日本の復活のために何か手を差し伸べたいという気持ちにさせた。これが、これからの時代には大事。世界が一体化してグローバル化して、世界のどの地域に起こった現象もたちどころにして全世界に影響を与える。この一体化した社会、これからの時代においては、どんな問題でも全人類が力を合わせれば、必ず乗り越えられる。全人類が心をひとつにしてぶち当たれば、どんな問題でも怖くない。そういうことに目覚めさせていくということのために、今いろんな出来事が世界に起こっているんだ。そう我々は受け止めていかなければなりません。**

**すなわち、近代の理性を原理にした時代は終わった。理屈で生きるのは終わったんだ。理屈はたくさんだ。これからは理屈を言い合うのではなくて、理屈を超えてどんなことでも心をひとつにして助け合って、力を合わせて乗り越えていくという生き方をこれからの時代はやっていかないかん、と天が教えているんだ。会社の経営や仕事においても、どんな問題でもどんな小さな問題でも、たったひとりの社員が犯した失敗でも、それを乗り越えるために全員が協力をすれば、かえってその失敗が全社的な団結力をつくり、そのことによって信じられないような大きな成果を挙げて、お客様にも感動を与える。そういう風な仕事の仕方というか、結果を出すことができるわけであります。どんな問題でも心をひとつにしてぶち当たる。どんなことにも互いに力を合わせて協力し合って対応していく。これがこれからの会社の在り方においても、仕事の仕方においても大事なんだ。理屈で対応し、立場で対応し、地位で対立し、地位や立場や理屈で言い合って、あれこれとお互いに反目しあっているようなそういう仕事の仕方ではダメ。理屈はたくさん。そんな時代は終わったんだ。これからは、理屈を超えて、そういう生き方を求めていって、心をひとつにして皆が力を合わせれば、どんな問題でも乗り越えられる。どんな絶望的な状況でも皆が力を合わせて、力を出し合えば必ず助かるんだ。そのことを大金融恐慌も世界に教えましたし、今回の震災も皆が力を合わせれば必ず乗り越えられると。理屈を超えて皆が助け合うという新しい人類の生き方を世界に、人類にさせるという結果をつくり出しました。**

**大事なことは、皆が力を合わせればどんな問題でも乗り越えられて、どんな絶望的な状況でも皆が力を合わせればそこから脱却できるんだ。という生き方を一過性のものにしてはならない。人間はすぐ喉元過ぎれば熱さを忘れる、ということになりやすいんですよ。一時は皆が協力すればどんな問題でも乗り越えられると思うんです。そういう気持ちになって、なんとか役に立ちたいという気持ちになっていますけど、ある程度落ち着いてくれば、本当に喉元過ぎれば熱さを忘れるということになる。そういったことも忘れてしまって、また元の木阿弥。醜い薄汚い対立と非難の応酬という状況に国会が戻り、また家庭も職場も人間の道を忘れたような間違った状況になってしまいかねないのが、これまでの人間の心情でした。本当に喉元過ぎれば熱さを忘れる。だけど今回のリーマンショックと巨大地震は、これからの人類の生き方を教えてくれたんですよ。これからは絶対に理屈にこだわって、言い合いをする状況ではならない。とにかく理屈を超えて生きることが大事なんだ。理性の時代は終わったんだ、これからは感性の時代なんだ。心をひとつにして、皆が持ち寄った心をひとつにして、皆が能力を持ち寄って、皆が協力してなんとか乗り越えていこうと思ったら、必ず大きな成果を挙げることができる。それがこれからの人類の生き方であり、これからの国家の在り方であり、会社の在り方なんだ。理屈を超えて皆が力を合わせれば、どんなことでも解決できる。どんな問題で乗り越えられる。そして素晴らしい発展がそこから始まる。そのことを天は、宇宙は、今人間に教えようとしている。今回の気持ちを永遠にしなければならない。今回の気持ちをこれからの人類の生き方の根本に据えて、どんな問題でもこの方法で対**

**応しよう。という気持ちに全人類がなり、また日本国民はそういう気持ちであらゆる問題に立ち向かっていく。そういう時代をこれから我々はつくっていかなければならない。決して一過性のものにしてはならない。決して喉元過ぎれば熱さを忘れるという軽薄な対応で終わらせてはなりません。是非このことも皆さん方にわかってもらいたいことなんですよ。**

**単に会社の仕事だけではなくて、家庭生活においても全家族が本当に心をひとつにして、全家族が協力し合えば、どんな問題でもどんな命の問題でも必ず乗り越えられるんだ。家族の団結力というものも大切なものなんだということを思い出さなきゃならない。ちょっとした小さなことで夫婦喧嘩をし、親子喧嘩をし、家庭が四分五裂に寸断されてしまっている状況というのは、明らかに人災だ。人間の間違った行為だ。家庭というものは血縁という理屈を超えた力によって結ばれた人間関係なんだ。だから、家庭こそ血縁という理屈を超えた、心の結びつきであらゆることに対応していかなければならない社会であります。家族家庭生活においても職場においても国会においても世界においても、これからの生き方の大原則として、理屈を超えて心をひとつにして力を合わせて生きることを、あらゆる状況において我々は見失わずに実践していかなければなりません。あれこれ小賢しく理屈を言い合うことは、人間にとって醜いことなんだ。理屈ではなくて心をひとつにするという理屈を超えた生き方こそ、これからの人類に望まれる大事な生き方の原則である。このことが実践されていくことによって、やがて地球は本当にひとつになって、地球がひとつになって地球文明という東西の対立を超え、南北の対立を超えて、地球はひとつという地球文明というものがつくられていく。そういう結果に結びついていくわけであります。**

**実際こういう時代であればこそ、現在世界を動かしているキーワードは統合という言葉なんですよ。今はあらゆるものが結びつきを求め始めている。統合を求めている。統合という言葉があらゆるものを動かしているんです。理屈を超えてお互いに力を合わせて結び合う。そして結び合って協力した有機性から出てくる相乗効果こそ発展であり、利益であると。統合という言葉が、今あらゆる世界を動かす、導くキーワードになっております。今は統合の時代であり、パートナーシップの時代であり、共生の時代である。完全に理屈を超えた状況を今世界が求めているんだ。理屈を超えて統合を実現していかなければならない。理屈を超えてパートナーシップをつくっていかなければならない。理屈を超えて共生していかなければならない。それが今の天意であり、時代の要請なんですよ。応えて我々はこれまでとは違う全く新しい生き方をしていかなければならない。その意味でも今はとにかく原理的変革の時代なんだ。表面的な改良、改革、アレンジメントではないんだ。原理的変革という状況を我々はあらゆる領域においてつくり出していかなければならない。原理的変革の生き方に目覚めさせるために巨大地震という天災をもって、人間に気づきを求めているんだ。これは一時のものではない、これからの生き方を原理的に支配する新しい生き方に目覚めさせようとする天意だ。とにかく、まずもって理屈を超えて、皆が協力し合ったならば、どんな問題でも乗り越えられる。そういう自信を今こそ我々は持たなければならない。**

**よくラグビーで呼ばれる話なんですけど、「one for all ,all for one」皆はひとりのためにまたひとりは皆のために。そういうどんなことでも皆が力を合わせてそれに対応すれば、必ずクリアできる。必ずブレイクスルーできる。その自覚を持って、これから我々はあらゆる事柄に対応していかなければなりません。もう二度と醜い卑劣な理屈による対立や反目という状況に戻ってしまってはなりません。もし今回の震災がある程度落ち着いて、国会がまた再び与野党の醜い対立に陥ったならば、我々国民は声をあげて、「あの天災の意味を忘れたのか」ということを国会に直言**

**するような意志を持たないといけません。そういう国民の意志を我々は持たないといけないと思います。**

**今日本はいろんな意味で国難、国を挙げて対応しなければならない大ピンチに陥っているわけであります。天災、巨大地震、津波、そして原発の問題に対応する、これも国難です。中国との尖閣諸島の問題やロシアとの北方領土の問題また韓国との竹島問題。そういう日本を取り巻く国際状況もまさに今、国難と言われるような状況にあります。また日本の経済状況を考えても、本当に信じられないような国民に対する負債があって、計算上は800兆円を超える負債があると言われていて、それが800兆円なのか1000兆円なのか2000兆円なのか、どれだけあるかわからないと言っている人もいるぐらいです。これはもう国家破綻という状況にいつなってもおかしくないと経済学者の方々は言っておられるわけであります。いろんな意味でとにかくは、そういう追い詰められた状況に日本はあるのだから、こんな状況の中でまた与野党がお互いに対立し合って、協力し合わないで政権闘争を繰り返すような状況では、これこそまさに本当に日本は崩壊の危機に瀕すると言っても過言ではない。皆が力を合わせてぶち当たらなきゃ解決しないという問題が山積しているんだから、決して元の木阿弥に戻ってはならない。全国会議員が自分の持てる力を最大限に発揮して、何かしら自分の力を国家のために役立てたいという思いにならないといけないと思います。**

**実際問題今、原発の周りで原発が大事に至らないように、高放射能の中、必死になって命がけで作業していただいている自衛隊の方々がいらっしゃる。また、消防団の方がいらっしゃる。東電の下請けの方々がいらっしゃる。東電の幹部は遠いところであれこれ指示をしているだけですが、現場で働いている方々は必死ですよ。命がけですよ。自分の命なんてどうなっても良いという思いがなかったら、あんな高放射能の環境の中で仕事なんかできませんよ。それをして下さる方々は何百人もいらっしゃるんだという現状を我々は忘れてはならない。理屈を超えた仕事をしているんだ。命がけなんだ。「俺の命なんてどうなっても良い」と言えるぐらいの命を惜しまない思いがなかったら、あんなところで仕事はできませんよ。我々としては本当にもう遠くからだけど、手を合わせて拝むぐらいの仕事をしてくれているわけですよ。そういう仕事の現実を見れば、いかに小賢しい小さなことで、「ああでもない、こうでもない」とお互いに揚げ足取りをして、国会でお互いに非難し合って責め合って、あんな醜い人間性を晒している状況は、これはもう恥ずかしいと思わないといけないことなんではないかと思います。そしてああいう状況に戻ってしまったらいかん、ということを国民がちゃんとわかって、そして国会議員に新しい時代の生き方に目覚めてくれよと、いうことを言い続けないといけないと思います。**

**国民が目覚めなかったらまた国会は元に戻りますよ。そういう意味でも感性論哲学においては、政党が存在したら結局国会は政権闘争に明け暮れてしまう。だから政党がある限り続くんだから、だからもう政党をなくさなければならない。政党のない政治をつくっていって、一人ひとりの国会議員が自分の持てる力を国のために、国民のために最大限発揮しようとする…そのように協力し合って、国会議員が活動する状況をつくっていかなきゃならない。ということをずっと皆さん方にも申し上げています。これからは政党政治ではない。今からは脱政党政治。将来は政党のない政治が実現されるんだ。早く政党のない政治を実現して、本当に全国会議員が自分の持てる全能力を国家のために、国民のために使うことができる、そういう職場としての国会を我々は国民としてつくってあげなければならない。政党政治から合議政治へと政治を原理的に変えなければな**

**らない。そういう流れをつくっていくためにも、とにかくは理屈で言い合っているような古い政治に戻ってはならない。理屈を越えて力を合わせて心をひとつにして活動するという国会は、どういう国会なのかということを政治家自身が、一時も早くこのことを契機にして考え始めないといけないと思いますよ。**

**そして皆さん方のアサヒグローバルにおける仕事の在り方においても、決して理屈で相手を罵倒したり、対立して反目し合ったりという状況に陥らないように、意見が違ってもとにかく理屈を超えて力を合わせて心をひとつにして、事にあたることが一番大事なんだ。そこで俺の力をどのように使えば、ことはうまく運ぶか。そのことを考えて、自分の状況における役割を自分自身で考えて掴み取って、そして皆と協力していく。そういう新しい職場の在り方を考えていかなければなりません。本当に全く新しい生き方の時代に入ったんですよ。原理的には理屈を超えた在り方を模索していかなければならない。**

**理屈を超えて心を一つにする。だから新しい会社の在り方においても、人間の本質は理性ではない、心だ。だから会社においても一番大事なのは、全社員の心の結びつきだ。心の通い合いだ。そのことをずっと申し上げておりますよ。資本主義経済を超えた新しい時代の会社の在り方の根底に一番大事なのは、心の結びつき、心の通い合いだ。その心の結びつき、心の通い合いという在り方を根底に据えながら、その上に仕事の結びつきを乗せて、その上に役職の結びつきを乗せる。そうして初めて、会社は人間的な組織になる。そして理屈を超えて、皆が協力して能力を発揮できる。そういう統一された団結力で大きい組織が出来上がるんだ。今こそ、大震災を経験して日本人はあらゆる領域において生き方を形にしていかなければなりません。くれぐれも喉元過ぎれば熱さを忘れるという状況にならないように、心をひとつにして生きる生き方は根本において大事。それが天が求めている生き方、母なる宇宙が人間に求めている生き方なんだ。そのことを忘れないで、新しい生き方を定着させて、自分の人生をつくっていくということをぜひ考えてもらいたいと思います。これが第一番目の具体的な気づきの内容です。**

**次、第二番目の気づき。これは今全世界が巨大地震の災害にもかかわらず、日本人が秩序正しい生き方を見失わずに忍耐強く災害に耐えて、皆が協力し合って助け合って、一個のおにぎりを何人かで分けて食べるという生き方をしている。また「津波が来るぞ」ということをずっと半鐘を鳴らし続けて皆を避難させて、自分は最後まで半鐘を打ち続けて波に飲まれて死んでしまった消防隊員がいる。自分の命を顧みず、半鐘を打ち続けた消防隊員がいる。またおばあちゃんを助けるために孫がおばあちゃんに食べるものを食べさせて、自分は食べずになんとか生き延びて、屋根の上に登ってヘリコプターに「下におばあちゃんいるんだ。おばあちゃんを助けてくれ」と言って、上を飛ぶヘリコプターに救助を求めた。自分は震えて痙攣するような状態なのに、おばあちゃんを優先していた。そんな美談はたくさんあります。多くの人を感動させた出来事がありました。**

**皆食べ物がなくて、ようやく開いたコンビニに行列ができて、もうじき自分の順番が来るというときに、小学校5年生の子どもがレジを見たら募金箱があったので、その子は自分の欲しいものが買えるのに募金箱へ入れて何も買わずに帰ってしまったという出来事をバイトの男の子が見て、溢れ出る涙を止めることができなくて、体を震わせ始めた。そんな話もTVでやっていました。とにかく今回の大災害に関わらず、美談が絶えない。誰かを救うために自分の命を犠牲にして、そして自分の役割を死をもって果たしたという人がいっぱいいる。そういうことで全世界から、日本**

**人の生き方の素晴らしさに感動したという言葉が寄せられているわけであります。ただただ震災の酷さが世界の注目を集めているだけではなくて、それにも増して日本人の震災後の生き様の美しさに全世界が感動したというのが現実の状況であります。**

**こういうことを契機にして、全世界はこれからの人類の指導者は日本人しかいない、日本人が先頭に立ってくれて、これからの人類の在り方を導いてくれなきゃならない。それだけ日本人は尊敬に値する民族だ。そういうことを今世界は知りつつあるわけであります。日本以外の国ならば、これだけの大災害が起これば、皆自己中心的になって自分が食べるために他の者を押しのけて、ひとつでも食べ物を横取りしようと思うような、そういう自己中心的な行動に走るであろう。あらゆるところで暴動が起こり、略奪が起こり、いろんな事件が多発して、無秩序状態に陥るというのが、日本以外の国に予想される出来事であります。見事なことに日本はそうならない。皆苦しさに耐えて、お互いにお互いを思いやりながら助け合っている。そんな災害時の避難所における生き方を目にしています。こういう美しい生き方というものが、なぜ日本人はできるのか。大きな災害にあったときに、多くの人が自分の命を捨てて人を救うという行動を取れる。自分が食べるものを食べないで、年老いたおばあちゃんに冷蔵庫に入っているものを皆与えた。自分は食べないで助けを求めることができるのか。自分を顧みない、利己心を捨てた他の人の役に立つことを喜びとするような尊い生き方が、日本人にはできるのか。日本精神の美学とは何なのか、ということを我々はもう一度反省して、理解して、そしてこれからの自分の生き方に活かしていかなければならないと思います。**

**日本精神とは武士道だと言われて、「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」と言って、何かのために死ねるということは大事なんだ。という精神が日本人の精神としてよく言われるんですけど、だけどそれもそうなんだけど、決してそれだけが日本人の素晴らしさではない。それができる根底に、どういうものがあるのか。それを我々は知る必要がある。日本民族というのは、神道という民族宗教を持っているわけです。神道というのは、これはとということを持って、宗教的行事にしているわけです。というのは、冷たい水に浸かって、身の汚れと罪を洗い流す。それからというのは、外から身に着いた罪や汚れを払い落とす。というのは、人間は不完全な存在だから、自分の身から湧いてくる汚れや罪がある。自分の命から、自分の身から湧いてくる汚れや罪をによって洗い流す。いという行為をすることによって、外から自分の身に降りかかるさまざまな汚れや罪を払って、命を清らかなものにする。汚れなき命にして、汚れなき命を保つ。そこに神道の根本精神がある。すなわち、汚れた心を恥とする。汚れなき命をもって、生きることに喜び、満足を感じるというのが神道の精神なんです。純白な汚れなき心を守る。**

**古事記の言葉では「清き明き心」と言って、その清らかな心を保つところに日本人の根本精神がある。だから、汚れを恥とするんです。恥じる、恥ずかしいことはしてはいけないということで、そういう気持ちは神道の精神から出てくるわけです。そういう神道の精神である罪と汚れを払った清らかな心を持って、日本人は仏教を受け入れ、儒教を受け入れ、老荘思想を受け入れ、また欧米の科学技術文明を受け入れるという形で、今日まで日本精神というものを成長発展させてきたんですよ。恥ずかしいことはしたらいかんという神道の精神の上に、仏教の根本精神である慈悲心という仏教的な愛がつけ加わって、そして慈悲の心、相手の悲しみや苦しみを我が苦しみや悲しみと思う。そういう思いやり、愛の精神を受け入れました。そういう自分のことを中心にしないで、人の悲しみや苦しみに同情して、そして役に立とうとする仏教的な慈悲の精神というものを根底に、清き明き心という汚れない心がある。だから日本人は、利己的になって自分のことしか考えない精神を恥と考える。汚れたことだと考える。だから慈悲の心を持って人のために尽くすことに喜びを感じる民族なんですよ。神道の上に仏教精神である慈悲心というものを受け入れたことによって出てくる、日本民族の成長なんですよ。さらにその成長の上に儒教の精神を受け入れて、儒教というのは人の道を説く思想ですから、儒教の精神を受け入れることによって、人の道に外れてはならない、人の道に外れたことをすることは、汚れた心で恥ずかしい。恥ずかしいから人の道に外れてはならないという精神を日本精神としてつくりました。単に仏教を受け入れて、儒教を受け入れて、その精神に侵食されてしまうのではなくて、日本人には根本の神道の恥じるという精神がある。汚れなき心という精神がある。その上にいろんなものを受け入れていくことによって、日本人は大和魂というものを成長させてきたんですよ。仏教の慈悲心を受け入れることによって、人のために尽くすことの喜びというものを美しいと考える。儒教を受け入れることによって人の道を外れてはいけないという生き方の美学を持った。そして老荘思想を受け入れることによって、天に恥じる生き方をしてはいけないという考えを持った。神道の恥という思想を持っていますから、老荘思想を受け入れて天に恥じないというのも、単に天に従うだけではなくて、天に恥じざる生き方をしなければならないという思いを持って、「人事を尽くして天命を待つ」という生き方をつくりました。**

**さらに明治時代になって、欧米から科学技術文明を受け入れる。そのことによって日本人は、学問を受け入れて理性能力を成長させるということをした訳なんですけど、根本に人の道に外れたらいかんという思い、あるいは恥ずかしいことをしたらいかん、汚れたことをしたらいかん、汚れなき心を持たないかんという精神がありますから、だから科学技術文明というものを受け入れて、高度な文明をつくって先進国の仲間入りをしました。だけども、戦前の日本は、根本は決して金の奴隷になるんではなくて、税金でもたくさん払うことを誇りとした。戦後では節税なんかしちゃったりなんかして、税金と義務をできるだけ果たさないようにしちゃったりなんかして、脱税なんかしちゃったりなんかしたり。そういうことになってしまいました。戦前の日本人は沢山儲けて、国家にたくさん税金を納めることを誇りと思っていた。決して利己心のために金を儲けるのではなくて、金を儲けて国を発展させる。金を儲けて多くの人に恩恵を与えていくという活動を明治時代の日本人はやってきました。**

**しかも戦いというものも、日本人の戦いというのは侵略ではない。日本人の戦いというのは、常に防衛という意味があった。負けてはしまいましたけど、太平洋戦争も日本人が、太平洋戦争というものの本当の理由は、西洋列強によって植民地化されて、地獄のような搾取にあった苦しみの中にある同胞・アジアを救おうという精神から、日本人はアジアに進出して、アジアから西洋列強を追い払えというのが根本の精神でした。それは欧米から見たら、侵略に見えるんですよ。欧米に味方するアジア人からしたら侵略と言うんですよ。日本人が志したのは、大東亜共栄圏なんだ。アジア全体がひとつになって、西欧列強を追い払って、そして豊かな国土をつくろうという精神で日本人はアジアに進出していった。だから大東亜共栄圏という旗印があったわけです。決して日本のために侵略したわけではなかった。それはどういう風に戦争を理解し、どういう風に歴史を理解するかによっていろいろありますけど。大東亜共栄圏という言葉がちゃんと残っているわけですから、そういう精神もあったということは我々はちゃんと知っていなきゃならない。当然日本人は道に外れたことをしたらいかん。汚れた心を持ったらいかん。そういう清らかな汚れなき心**

**で何事もやっていかなければならないという精神が日本精神の根本にありますから。しかも恥ずかしいことはしたらいかんという精神がありますから、決して一般的に世界から言われて非難されているような悪い面ばかりがあったのではありません。とにかく日本精神もそういう汚れなき心を求めていって、汚れた心は恥だという精神が根本にあるということを是非覚えておいてもらいたい。その精神が今回の震災の結果においてもちゃんと表現されて、日本人は恥ずかしいことはしたらいかん。汚れた心を持ってはいかん。人の道に外れたらいかん。慈悲の心を持って人のために尽くすことを喜びとしないかん。天に恥じない行為をしないかん。そういう思いが多くの日本人の心の中から湧いてきて、今回の美談と言われるようなさまざまな行動に表現されたのだと思います。**

**そういう意味では、今回の震災というのは日本人の素晴らしさに世界が気づいてくれるというきっかけをつくった。そしてアメリカが指導者でなくなった世界において、これからの指導者は日本だ、という思いを持って日本に人類の未来を懸ける。日本に期待する気持ちが今回の震災を契機にして、世界に沸き起こってきているということを我々は自覚しなければなりません。であるがゆえに、そういう世界の期待を裏切ってはいけない。「せっかく素晴らしいと思ったのに、なんや日本人は」と思われてはいけない。非難される状況に陥ってしまったらいかん。この震災で目覚めた日本精神の美しさを我々はこれからの自分の生き方において、見せていかなければならない。そしてやっぱり日本人は、これから人類の指導者として尊敬できるという思いを世界に定着させる。持ってもらうこともこれから我々は自分自身の生き方として考えていかなければならないと思います。とにかく日本人には、恥ずかしいことをしたらいかん。汚れた心を持ったらいかん。常に自分の心を罪や汚れから清める。そういうということをして、常に自分の気持ちを清らかに保つという精神が、日本精神の根本にある。そういうところから仏教や儒教や老荘思想や西欧の文化との関わりというものを経験して、日本精神はずっと今日まで発展してきました。そういう道筋を我々は忘れたらいかんと思います。**

**慈悲心というものも単なる仏教の精神だけなら、思いやりの気持ちだけで終わってしまうんだけど、日本人は根底に清らかな心、汚れなき心が根底にあるから、だから慈悲という精神も相手のために尽くすことは自分の喜びになる。自分の誇りになる。そういう気持ちがあるわけなんですよ。単に人のために尽くせば良いという利他的な行為ではなくて、人のために尽くすことが自分の喜びであり、自分の誇りなんだ。人のために尽くして、たとえ死んでもそれが自分の誇りなんだ。という思いが、日本人にはあるわけですよ。また人の道を外れたらいかんということも、単に倫理・道徳を厳しく守るということだけではなく、人の道に外れることが恥だ、恥ずかしいという気持ちが根底にあるので、日本人は素晴らしいんですよ。単に倫理・道徳を厳しく守るという義務や責任じゃない。人の道に外れないということが、自分自身の喜び、恥ずかしくないという自分の自信に結びついているんだ。天に恥じない。単に天の命令に従って従順に生きるという老荘思想だけではなくて、天に恥じないということが人間としての生き方の美学であって、天に恥じない行動をする。それが自分の誇りである。天に服従するのではなくて、天に恥じない生き方が自分の人間としての誇りだという生き方になってくるのも、神道が根底にあるからなんですね。**

**学問もあらゆる技術も全部人のために使って、そして役立って自分の喜びとする。そのために学ぶんだ。学問も人の役に立つため、自分のためじゃない。人の役に立つため。人の役に立つことが自分の喜びであり、誇りなんだ。そこにやっぱり日本人が学問をする根本の精神があります。自分が賞をもらうためじゃない、自分がいばるためじゃない、自分がちやほやされるためじゃない。人の役に立つことが嬉しいから、そのために知識を求め、技術を求めて、仕事をして、勉強するんだ。**

**とにかく今大震災は日本人の日本精神の美しさというものを世界に伝えた。世界に感じてもらった。その結果、日本人はこれから人類の指導者としてアメリカ人に代わって、人類のためにさまざまな貢献をしていくという道がこれからできていくのではないか、そういう意味も今回の震災にはあったわけです。震災がなかったら世界は日本民族の精神の美学には気がつかなかった。この震災を通して初めて日本人の美しさに気がついた。だから援助してくれるんですよ。全世界が援助の手を差し伸べようとする気持ちを持ってくれるんです。日本に注目が集まっているんですよ。その期待を我々は裏切ってはなりません。**

**最後、第三番目に震災が教えたものは、東北地方は大地震に見舞われて、さらには大洪水、大津波に見舞われて、そしてさらには原発の事故に見舞われている。本当トリプルパンチですよ。こういう状況が一体何を意味しているのか。まずはこれから日本は、新しい時代を日本という国家において新しい時代をつくっていかなければならない。つくろうと思ったら、まずは東京からまったく新しいところへ遷都することを考えないといけません。日本の歴史を見れば、新しいところへ遷都することによって新しい時代をつくってきたという歴史があります。これは世界史もそうですし、日本史もそうです。歴史というものは、新しい風土に国家の中心を移すことによって、新しい時代が始まるという道筋をつくってきたわけであります。東京はもう都になって400年以上経過している。いかに広い関東平野といえども、その風土が持つ力は尽きたと言わなければならない。**

**日本が新しい国家としての発展を望むなら、まったく新しいところへ日本の首都を移すということを考えないといけません。分都と言うのではなく、遷都をセントバーナードなんですよ。大遷都をせんといかん。いったい遷都するかということをこれから考える段階に入っていかないといけない。それを考えさせるために今回震災が起こったんですよ。巨大地震が起こるようなそんなところへは遷都したらいかん。また津波が来るところにも遷都したらいかん。また原発の心配があるところへ遷都したらいかん。では、どこ？ と言ったら、日本海側の都市は大地震の心配がないんですよ。太平洋側は、大陸のプレートに太平洋プレートが沈み込むという構造ですから、常に巨大地震が起こって、大津波が来るという地形を持っているんですよ。日本海側の大陸棚はプレートが落ち込むことがないんですよ。だから日本海は大地震、大津波の心配ありません。日本海側は島根原発がひとつしかない。大きな災害が起こる可能性が少ない。状況によっては原発を停止して、そして休眠させることもできる。他のところには原発があちこちにあるんですけど、中国地方は原発一基しかない。特別な地域だ。そういうところから、感性論哲学ではとにかくこれからの世界は平和を目的にしていかないかんから、平和の原点と言えば広島。広島を中核とした中国地方5県を大首都圏として開発して、日本の新しい首都をつくる。そして、日本海側に日本の中心をつくって、日本海文明を開くんだという発想が私の感性論哲学の歴史観にはあります。これまでは太平洋側にあまりにも偏った日本の国土の開発が進んでいた。日本海側が全く放置されたままで、田舎町みたいな感じなんですよ。特に京都から山口県に至る山陰地方はほとんど田舎なんですよ。だからこそ大きな発展の余地がある。とにかく広島・島根・鳥取・山口・岡山という中国地方5県**

**を大首都圏として開発して、そして日本海側の文明に光を当てて、日本海側に古くからの大陸の交流のもとで埋もれている日本の文化遺産を掘り起こして、そして日本に新しい文明をつくる。そういうことを考えております。どこに遷都したら良いのか。巨大地震の心配がない、津波の心配はない、原発の心配はない、そういうところで考えていったら、どうしても山陰地方の中国地方5県が浮かび上がってくるんですよ。しかもこれからは、人類は平和を目的としてやっていかないかん。そのためには世界が認める平和の原点は広島だ。広島を中核にした中国地方5県を大首都圏として開発をして、日本海側に日本の中心を移していく。そして日本海文明をつくる。さらにアジアを睨んだ日本の首都をつくる。そういうことが今回の巨大地震によって示されました。太平洋側はどこへ持っていても危ないんだ。どこへ持っていっても巨大地震が起こる可能性がある。四国も徳島・高知は危ないところなんですよ。可能性としてはね。そういうこともこれから考えていかなきゃならない。**

**原発の問題がどういうことなのか、ということなんですよ。多くの方が今回の原発の件で、「もう原子力発電はやめさせないかん」という意見に傾いた。太陽光発電か自然エネルギーを使った発電にしようと。原子力から逃げるということを考えてらっしゃる方も多いと思うんです。だけど人類はもうすでに原子力をエネルギーとして使う力を持ってしまったんですよ。しかもこれは原発の問題だけではなくて、核兵器にも関係している問題です。だから核兵器をつくる能力を持ってしまった人類が、核兵器をなくすということは、さらに大きな不安を人類にもたらすことになってくる。核兵器をつくる能力を持ってしまった人類が、核兵器を全廃したら、誰かが核兵器をつくって「俺が世界を制圧しよう」という悪い奴が出てくるとも限らないから、全世界がお互い監視状態に入って、全世界が諜報国家になって、お互いを監視し合う。密告が奨励されて、「あそこがひょっとしたら原発をつくっているかも知らん」と噂が噂を呼んで、影に怯えてその国を攻める。そんな形で全人類が疑心暗鬼に陥って、お互いが不審な目で見つめ合う。そういう憂鬱な世界になってしまう。そうすれば核があるよりも大きな危険が生じる。だから人類の進むべき道はただひとつ、核兵器をなくすんじゃない、原発をなくすんじゃない。放射能は怖くないという状況をどうつくるか。放射能の不安を一掃する。そして放射能を有効に利用する道をつくる。放射能を活かして使う道を切り開いていくしか、人類の進む方向性はないんですよ。持ってしまった能力をなくすことできませんから、あとはもう核廃棄物や核兵器なんてあったって、そんな古い兵器は役に立たんという状況をつくり出して、放射能は怖くないという、ちゃんと放射能から身を守ることができるし、放射能を無害化することもできるし、放射能を利用することもできるんだ、という科学をこれから我々はつくっていくために日本人は貢献しなければなりません。それが唯一の被爆国である日本人が人類に対して果たす使命です。**

**今回の原発の事故を契機にして、原子力発電はダメだと核から逃げたら、人類は永久に放射能への恐怖に怯えながら生きていかないかん状況になります。そうでなくて、放射能への不安を一掃して、放射能なんか怖くない、放射能は有効利用できる、そのような道を開いていくことが進歩なんですよ。原子力発電から逃げ、核兵器の廃絶を謳うことは、逃げの生き方。恐怖と怖がった生き方なんだ。感性論哲学は、逃げたらいかんという哲学です。だから、放射能というものを無害化することによって乗り越えていく。真正面からぶつかって、前へ進んでいくしか道はないんですよ。後戻りはできないんですよ、歴史は。前に進んでいくしかないんですよ。これをまだほとんどの学者は言ってない。放射能の有効利用と無害化ということは、まだ研究ができてないんだ。ただ放射能の被害をどう食い止めるかの話。だから怖い、この恐怖がある限り、人類は新しい時代に進んで**

**いくことはできません。ぜひ核の問題、放射能の問題に対する対処の方法ということに関しても、こういう考え方もあるということを皆さん方に知っておいてもらいたいんですよ。逃げるんじゃない、まともにぶつかっていって乗り越えるんだ。それしか人類の進歩の道はないんだ。いつまでも放射能を怖がっていたらいかん。**

**そういう仕事は、原爆の被害を2回も国土に受けた日本人が人類のために担っていかなければならない使命であり、仕事なんだ。そのことも今回、原発の事故は教えてくれました。日本人が中心になってこの問題は乗り越えていかないかん。世界のいろんな人の手を借りるにしても、日本人が中心になって乗り越えていかないといけない問題なんだ。今回の原発の事故は収まったとしても、大爆発になって大きな放射能被害が起こったとしても、結局は日本人がそれをどう乗り越えていくかということが、今回の原発の問題が日本に起こった意味なんだ。ということを我々は自覚していって、人類のために放射能を無害化する研究を、日本が中心になってやっていくことを決意しなければなりません。それがこれから核というものをエネルギーとして持ってしまった人類の未来を安全にし、幸せにするための重大な仕事です。放射能の無害化、有効利用、是非その道をこれから我々は考えていく。そのための研究を科学に課する、ということをしていかなければならないと思います。その他にもいろいろと、こういう大きな問題はいろんな気づきをいろんな人に与えていると思いますので、また皆さん方も皆さん方で、私が申し上げたこととは違った気づきを持ってらっしゃる方もいらっしゃると思うんですけど、一応私の立場からの気づき、あるいは考え方を理解しておいてもらって、これからのご自身の生き方や仕事の仕方の参考にしてもらえたらありがたいと思います。今日はどうもありがとうございました。**